

岡山県立

博物館だより

74号

- 博物館 NEWS …… ②
- 企画展を終えて …… ④
- 交流展を終えて …… ⑤
- 学芸員ノート …… ⑥
- 教育普及事業 …… ⑦⑧
- INFORMATION …… ⑧



＜吉備の国ジュニア歴史スクール＞
桃太郎コース・鬼ノ城西門にて



＜企画展より＞子ども体験！あなたも薬剤師



＜交流展より＞藤戸合戦図（倉敷市 藤戸寺蔵）

新収蔵資料—万代家資料と木村家資料—

万代家は、室町時代に現在の大阪府堺市から岡山県和気郡和気町益原に移り、代々医師として現代まで本県の地域医療に多大の功績を残しています。中でも11代常閑は、富山の売薬の歴史に大きな影響を与えた人物として知られています。

このたび、万代家に伝わる江戸時代以降岡山藩主から拝領した家伝薬「延寿返魂丹」の大看板や、西洋医学を取り入れた際に用いたメスなどの医療や薬事に関する資料をはじめ、東備地域の文化的資料などを一括して寄贈していただきました。本館では、これを記念して4～5月に企画展『売薬の祖 万代常閑』を開催し、寄贈資料や富山県の売薬資料により万代常閑の業績をひろく紹介しました。

木村家は倉敷市で代々製造業を営まれており、このたび、昭和初期の婚礼衣装や衣装箆笥など近現代の生活や風俗を知ることの出来る貴重な資料を寄贈していただきました。その一部については『夏期展（5～8月）』で展示しました。



木村家寄贈資料（松打梅模様打掛）

島根県立古代出雲歴史博物館ボランティアとの交流

昨年度から実施している岡山・島根文化交流事業では、島根県立古代出雲歴史博物館が保管する国宝青銅器を展示し大変好評でしたが、事前研修会として岡山県立博物館ボランティアが島根県に出向いて交流も行いました。

今年度は、6月2日に島根県立古代出雲歴史博物館のボランティア約30名が岡山県立博物館を訪れ、展覧会の見学とともに両県のボランティア活動の内容や問題点などについて情報交換会を行いました。（副館長 平井泰男）



情報交換会

仏胎内の世界

瀬戸内市上寺山餘慶寺本堂（観音堂）の本尊千手観音立像は、その像容から室町時代の作と考えられ、秘仏として大切に祀られてきました。

餘慶寺では、お寺や地元の方々が主体となり学識経験者と協力し、この千手観音立像を修理をした結果、胎内から約400年前の江戸時代の修理記録や五穀・銅銭・祈祷札など多くの納入品が発見され、大きな話題となりました。

納入品は和紙に包まれていたため保存状態が良く、就実大学を中心としてコメのDNA検査などの調査・研究が進められました。その結果、コメの性質などが明らかとなり、江戸時代の農業を考える上で貴重な知見も得られました。

こうした餘慶寺と就実大学を中心とした動きと連携して特別陳列を開催しました。新発見された納入品について、最新の研究成果の発表を含めて速報的に紹介した初めての試みでした。

（学芸員 河合 忍）



「わくわく体験ゾーン」ができました！

岡山県立博物館に、体験学習コーナー「わくわく歴史体験ゾーン」ができました。これは、触れることのできる資料の設置を希望する声が来館者や学校教育関係者から多く寄せられていることから、博物館で展示されている文化財をもとにした体験グッズを整備したものです。



「わくわく歴史体験ゾーン」の様子

体験メニューには、博物館所蔵品の立体パズルのほか、各時代の衣装（貫頭衣・打掛・陣羽織など）や昔の遊び道具（剣玉・お手玉・コマなど）などいろいろあります。



昔の遊び道具で遊んでみよう

この中でも、特にオススメなのが、「特殊器台の立体パズル」です。これは弥生時代後期に使われた儀式用の土器といわれている特殊器台（原品：重要文化財、岡山県立博物館蔵）の実物から型取りして製作した実物大の立体パズルです。



全国初★特殊器台の実物大立体パズル

高さ約95cmで19個の部品に分かれており、磁石でくっつけて組み立てることができます。特殊器台の立体パズルとしては全国でも初めてのもので、弥生土器の立体パズルとしては国内最大です。

「わくわく歴史体験ゾーン」の利用は無料（入館料は必要）で、ゾーン内では写真撮影もできます。ぜひ家族や友達と楽しく遊びながら、岡山の歴史と文化を感じてください。

（学芸員 佐藤寛介）



武将に変身！

売薬の祖 万代常閑

万代家は、代々「常閑」を名乗り医を業としました。江戸中期から岡山藩の和気郡医も務め、中でも11代常閑は、越中富山へ家伝薬「延寿返魂丹」を伝えた人物として知られています。2ページの『博物館NEWS』でも紹介したように、万代家に伝わる貴重な資料の数々が、このたび当館へ一括して寄贈されました。本展覧会は、これを記念して、医業をはじめ同家に関わる様々な資料や富山県の売薬関係資料を紹介しながら、「万代常閑」という本県ゆかりの人物の業績について考える機会となればと思ひ企画したものです。

(入館者数 4,852名)

広報用ポスター

画面左の11代万代常閑像（備前焼）は、昭和6年、11代常閑に従五位が追贈された際に製作されたもの。



展示は3部構成で

第1部「万代家の医業」では、万代家が和泉国万代村（現大阪府堺市）から岡山に移り、妙薬「延寿返魂丹」をもって医業に従事した様子を古文書や医療器具などから紹介しました。中でも元禄17(1704)年に岡山藩主池田綱政公から拝領した大看板は、「延寿返魂丹」が藩主にも認められた良薬であることを物語っています。

第2部「万代常閑と越中富山」では、重要有形民俗文化財に指定されている「富山の売薬用具」を中心に、売薬の祖として現在でも大切に祀られている常閑と富山の関わりを富山藩前田家伝来の古文書や錦絵、写真資料などで紹介しました。

第3部「近代以降の万代家」では、このたび初公開となる備前市片上に開業した万代医院の医療関係資料を中心に、近代から現代に至るまで地域医療に尽力した万代家の足跡をたどりました。また、



展示室風景

会期：平成22年4月22日（木）～5月23日（日）

18代常閑が趣味とした写真や「片上八景」を描いた絵画等も御覧いただきました。

医学と薬学を博物館で

関連行事として2つの特別記念講演会を開催しました。「おかやまの医学の歴史と万代常閑」と題して山陽学園大学・同短期大学学長、赤木忠厚先生に、「岡山の薬と教育」と題して就実大学副学長・薬学部長、五味田裕先生に御講演をいただきました。



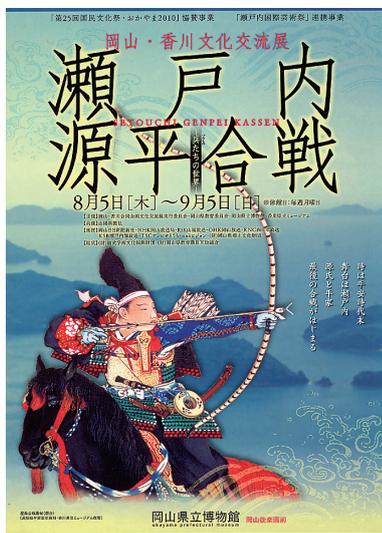
(170名参加) 岡山の医学と薬学について第一線の研究者による講演は、展覧会の理解を一層すすめる参加者も熱心に耳を傾けていました。また、共催者（社）岡山県薬剤師会の御協力で「子ども体験！あなたも薬剤師」を実施しました（210名参加）。白衣を着たちびっ子薬剤師が、処方箋にしたがってお菓子を使った薬を袋詰めしました。薬研や薬草に触れる体験も同時に行い、「薬がより身近に感じられた。」との感想が寄せられ大好評でした。

展覧会を終えて

富山県での資料調査の際、資料館はもちろん訪ねた薬局でも「売薬の祖万代常閑」について詳しく話を聞くことができました。岡山県ではどうでしょう？残念ながら富山県ほどの知名度はないように思います。現代のように薬を手に入れることが難しかった時代、「置き薬」の恩恵を受けた家庭は数知れないでしょう。良薬を処方し、医者として医療に尽力し、「売薬」を富山へ伝えたときされる人物「万代常閑」を地元岡山の人にまた全国の人に知ってもらいたいという一心で展覧会を準備しました。「新たな発見だった。」「地域の宝の発掘だ。他県との関わりがわかった。」「岡山人はもっと彼を尊敬してよい。」などの寄せられた感想から少しは顕彰ができたように思います。貴重な資料を御寄贈くださいました万代家の方々に改めて御礼を申し上げ、資料の研究、活用に一層努力したいと思います。（学芸員 信江啓子）

つわもの 瀬戸内源平合戦—兵たちの世界—

瀬戸大橋で結ばれる香川・岡山両県では、さまざまな分野での交流が求められ、また進められています。岡山県立博物館では、文化面での交流をいっそう進めるため、平成18年度から3年間にわたり、香川県立ミュージアムと連携して企画展示を行ってきました。今回、この文化交流を継続するとともに、香川・岡山両県にまたがる瀬戸内の島々を会場に開催される「瀬戸内国際芸術祭2010」の連携事業として、瀬戸内における源平合戦をテーマに展覧会を開催しました。



広報用チラシ

展覧会の内容とタイトルをイメージして、展示作品の中から「屋島合戦画帖」の那須与一を大きく取り上げ、バックを瀬戸内海の航空写真としました。

会期：平成22年8月5日（木）～9月5日（日）

戸内の覇権をかけた重要な意味を持つ合戦であったことを紹介しました。また、「赤韋威鎧く復元模造品」(高梁市歴史美術館蔵)や、源平合戦を描いた江戸～明治時代の錦絵なども展示し、当時の源平武士の勇壮な姿や、源平合戦が後世にどのように語り継がれたかを紹介しました。

さらに、会期中の関連行事として、神戸大学名誉教授の高橋昌明先生による「藤戸および屋島合戦の歴史的意義」と題した記念講演会をはじめ、薩摩琵琶鶴田流奏者の大杉秀宗先生による「ミュージアムコンサート 琵琶の語りで聴く平家物語」、親子や家族で楽しめる「那須与一に挑戦★弓矢で扇の的を射よう!」や、「はくぶつかん クイズラリー」などを実施しました。



那須与一に挑戦★ 弓矢で扇の的を射よう!

展示では、「源平合戦図屏風」(香川県立ミュージアム蔵)や「屋島合戦画帖」(高松松平家歴史資料・香川県立ミュージアム保管)をはじめ、「藤戸合戦図」(藤戸寺蔵)や「平家物語絵巻」(林原美術館蔵)など、現在の香川・岡山県域でおこった屋島合戦や藤戸合戦を描いた絵画や関係資料を展示し、瀬

本展の期間中には5,075名の方にご来館いただきました。今後もこのような他県との連携をすすめることで両県の歴史や文化に対する理解が深まるとともに、文化交流がますます活発になることを期待しています。

(学芸員 佐藤寛介)



展示室風景



ミュージアムコンサート 琵琶の語りで聴く平家物語

特別陳列 「幕末維新の名刀」

会期：平成 22 年 6 月 29 日（火）～8 月 1 日（日）

幕末から明治維新时期にかけての時期は、日本の歴史の中でも激動の時代として注目を集めており、最近では坂本龍馬をはじめ幕末の志士たちを中心に特に人気が高まっているのは皆さん御存知のことと思います。

日本刀はつくられた時代によって、戦国時代までのものを古刀、江戸時代のものを新刀、幕末のものを新々刀といいます。幕末は日本刀が武器として用いられた最後の時代であり、新々刀には実戦を意識した名刀が数多くあります。そこで、今回の特別陳列では岡山ゆかりのものを中心に幕末維新の名刀を紹介しました。

展示では、あの新選組の局長近藤勇も愛用したという長曾禰希徹の刀や、幕末の名工藤原直胤が備中千屋の鉄でつくった刀などに加え、地元の備前長船刀工たちがつくった新々刀の名品を展示しました。また、江戸時代を通じて発達した金属工芸や漆芸の粋が込められた美しい拵や鐔などの刀装具もあわせて展示しました。今後も色々なテー

マで日本刀を取り上げ、日本刀ファンだけでなく、歴史ファンにも楽しんでいただける展示を企画していきたいと思います。（学芸員 佐藤寛介）



刀 藤原直胤<備中千屋打ち>
岡山県指定重要文化財 個人蔵

藤原直胤は幕末を代表する名工の一人で、号を大慶といい、その技量を請われ全国各地で作刀した。本作は、備中千屋（新見市）の鉄山師太田辰五郎の依頼により千屋産の鉄で鍛えた刀で、精美な地鉄に冴えた互の目乱れの刃文を焼いた傑作である。銘（表）藤原直胤〈花押〉天保八年一陽來復日、（裏）黄薇国千屋莖於太田政恭嘗人所製以阿剣山真鍍作雌雄二刃。刃長 70.3cm、反り 2.9cm。

特別陳列 「大地からの便り2010 - 県内の発掘調査報告展 -」

会期：平成 22 年 8 月 5 日（木）～平成 22 年 9 月 5 日（日）

本特別陳列は、岡山県古代吉備文化財センターとの共催で、県内発掘速報展として開催しました。展示遺跡は 7 遺跡で、第 1 展示室の大半に資料が並びました。今年の夏は例年以上の暑さで、岡山県古代吉備文化財センターの担当者と二人で、汗を流しながら各遺跡の調査・借用に回り、陳列をしました。

展示室では、総社市八紘古墳出土の耳環や鉄製品など多彩な副葬品や、鬼ノ城出土の鍛冶関連遺物などに考古ファンが集まりました。また、夏休みの子どもたちも出土品に見入っていました。

期間中、本館講堂で調査担当者による報告会も行われ、約 120 名の方が参加され、終了後展示室で、調査担当者の解説を実施し、聞き入ったり質問をしたりする多くの人で賑わいました。

（副参事 正木茂樹）

※展示遺跡並びに主な展示資料は次のとおりです。

- 上東中嶋遺跡 (倉敷市) 縄文土器・石製品
- 南溝手遺跡 (総社市) 石鍬・弥生土器・土師器
- 北溝手遺跡 (総社市) 弥生土器・土製品
- 八紘古墳 (総社市) 須恵器・土師器・鉄製品・耳環・円筒埴輪・製塩土器
- 鬼ノ城 (総社市) 輪羽口・鉄滓・砥石
- 大供本町遺跡 (岡山市) 備前焼・瀬戸焼・唐津焼・織部焼・伊万里焼・明染付・土師器・瓦質羽釜
- 半田山午砲台跡 (岡山市) 備前焼製土管



展示室風景

教育普及事業の概要

当館では、近年、教育普及事業について推進を図っています。平成22年度の上半期の概要を紹介します。

博物館講座

県民一般を対象に、「岡山の歴史と文化」をテーマに行う講座で、スタンダードコース・スペシャルコースを開講しています。前者は、当館学芸員を中心に平素の研究成果を博物館資料に基づいて8講座を学習するもので、6月に火曜・木曜班各70名が受講されました。後者は、各研究の第一人者等外部講師をお招きし、より専門的に4講座を学習するもので、7月～10月の毎月一回、各120名が受講中です。



学芸員解説

毎月第2・4土曜日の14時から、学芸員が展示内容の解説を行っています。展示会の内容を詳しく、展示資料を分かりやすく説明しています。今年度も毎回多くのお客様にお越しいただいています。

館内授業・出前授業

「館内授業」は当館で実物資料を用いた授業を受けたり展示を見学したりするもので、「出前授業」は学芸員が直接学校に出向き、持参した実物資料を用いて授業を行います。いずれも学校教育との連携事業として実施しています。今年度も多くの小中高の学校から依頼があり、また、大学からも学芸員実習を兼ねての見学も増えています。



吉備の国ジュニア歴史スクール



2年目を迎えた今年は、「備前焼」「桃太郎」「い草」の3コースで実施しました。バスツアーによる史跡等の見学、当館で収蔵資料を使った授業や展示見学、そして学校でのまとめを行って、学習を深めます。浅口市立金光吉備小学校、矢掛町立美川・三谷・山田・中川小学校、久米南町立弓削・誕生寺・神目小学校の子どもたちが参加しました。

「歴史体験 よろいと小袖を着てみよう！」



5月5日には「歴史体験 よろいと小袖を着てみよう！」を実施しました。よろいと小袖ともに10組ずつの親子が参加し、実際に着用して本物の持つ質感や迫力などを体感しました。楽しい一日になりました。

博物館実習

7月21～23日、学芸員を目指す学生3名に、学芸員がそれぞれの専門分野に関わる実習を行いました。3日間の館内での実務実習の後、8月中には展示会関連行事の支援活動を行いました。夏休み中ということもあって、多くのお客様が訪れましたが、接客や行事の準備、片付けに頑張りました。



(学芸員 鈴木力郎)

岡山県立博物館博福連携事業「いきいき館内講座」

本年度から、老人福祉施設と連携して、博物館資料を使って回想法を行う「いきいき講座」に取り組んでいます。学芸員が資料を持って出かけて施設で行う「出前講座」と当館で行う「館内講座」をセットにして、軽費ケアハウスと養護老人ホームの各1施設と連携して実施しました。

「出前講座」には、羽釜、氷削り器、ひのし、防空頭巾など衣や食を中心にした生活用具の中から手に取りやすいものを持ち込み、使い方や思い出、エピソードを自由に話してもらいました。(参加者 軽費ケアハウス10名、12名の2グループ、養護老人ホーム12～13名4グループ)「館内講座」では、衣、食、住を中心に足踏みミシン、氷冷蔵庫、蚊帳、足踏みオルガンなどの大型の道具に触れながらお話を行いました。(参加者 軽費ケアハウス9名、養護老人ホーム8名)軽費ケアハウスの日には高校生ボランティア9名(岡

山県立倉敷中央高等学校)も加わりました。

合わせて展示室には、「卓袱台のある風景」をテーマに昭和30年代の民具を展示するコーナーを設けました。(学芸員 住江啓子)



「いきいき館内講座」の様子

INFORMATION

●●●●● 平成22年度後期の展示予定 ●●●●●

特別展 第25回国民文化祭・おかやま2010協賛事業
「鬼ノ城―謎の古代山城―」

会期 平成22年9月10日(金)～10月17日(日)

特別展 第25回国民文化祭・おかやま2010協賛事業
「晴れの国の名宝―岡山の国宝・重要文化財―」

会期 平成22年10月22日(金)～11月28日(日)

私たちの郷土岡山は、日本の歴史において重要な位置を占め、各時代にわたり様々な特色ある文化を生み出してきました。

「第25回国民文化祭・おかやま2010」の開催を記念し、岡山ゆかりの国宝・重要文化財を中心とする優れた文化財を一堂に公開します。

交流展 「古代出雲展Ⅱ―神々の世界―」

会期 平成23年1月14日(金)～2月13日(日)

企画展 「近代岡山の先人たち」

会期 平成23年2月17日(木)～3月21日(月)



鬼ノ城出土須恵器
(岡山県教育委員会蔵)



【国宝】赤韋威鎧 兜・大袖付
(岡山県立博物館蔵)

岡山県立博物館だより 第74号

発行日/平成22年9月30日
発行者/岡山県立博物館 館長 三村 修

〒703-8257 岡山市北区後楽園1-5

TEL: 086-272-1149 FAX: 086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>



この用紙は古紙・再生紙を含んでいます。